長渕剛 歌で絆つなぐ

松島基地、石巻高校でミニライブ

ミュージシャンの長渕剛(54)が16日、自ら企画・発案した復興支援のためのラジオ番組「長渕剛 RUN FOR TOMORROW～明日へ向かって～」の一環として、東日本大震災の被災地となった宮城県石巻市と、同県東松島市の航空自衛隊松島基地を慰問した。避難所となっている石巻高校や松島基地ではミニライブを開催。「歌は人の心をつなぐんだということを再認識しました」と確かな手応えを口にした。

「お金も大事だけど、まずは心の復活」

墓地を訪れ、祈る長渕剛＝石巻市で

自衛隊員「ツヨシ」コール

「ツヨシ、ツヨシ!!」。航空自衛隊松島基地の格納庫に、北海道から沖縄まで全国各地から集まった自衛隊員約1500人の野太い大声援が響き渡った。人間の尊い命はもちろん、家屋から大切な思い出まで何もかも奪い去った巨大地震と津波。長渕はニュースの映像を見るたびに心を痛めていた。そんな中、自衛隊員たちが必死で救護活動にあたる姿に心を打たれ、居ても立ってもいられなかった。

「ここ松島基地の皆さんに会いたくて会いたくて仕方なかった。皆さんは僕の誇りです。大事な大事な誇りです」。最大級の賛辞を込めたあいさつとともに「HOLD YOUR LAST CHANCE」で長渕の熱いステージが幕を開けた。

左肩に「絆（きずな）」の文字が入ったワッペンをつけた隊員たちが一斉にこぶしを突き上げる中、「へ固い絆に 想いをよせて」の歌い出しで始まる「乾杯」は、隣同士の隊員と肩を組みながら全員で大合唱した。

全6曲のステージのラストは、復興への願いと、亡くなった被災者たちへの鎮魂の意味を込めて「CLOSE YOUR EYES」を披露。隊員の家族とみられる女性は「がんばろう日本！ ありがとう 長渕剛」と書かれた日の丸を手に、涙を流していた。

避難所で250人と触れ合う

松島基地の11飛行隊3等空佐の井川広行さん(38)は「全国から隊員が集まっているので、今まで会ったこともない人たちばかりなのに、みんなで肩を組んで歌ったあの一体感はすごい!! こんなふうに一つになるのは初めて」と、新たな絆の誕生を喜んでいた。

また、避難所となった石巻市の石巻高校では、マイクなしのギター1本で「とんぼ」など2曲を熱唱。約250人と触れ合った。会社員の阿部よね子さん(49)は「すごくかっこよかったです。避難生活が続いてみんなストレスがたまっているから、元気とパワーをもらいました」と話した。

震災直後は「歌を歌う気すら起こらない」と語っていた長渕だが、この日のパフォーマンスを終え、「無我夢中で駆け抜けてきましたが、今こそ音楽そして歌が必要だと思いました」と静かにうなずいていた。

そしてこうも付け加えた。「お金も大事だけど（人の心を動かすのは）義援金じゃないと思う。まず大事なのは（絶望からの）心の復活。これからもいい歌を書いて東北に気持ちを届けたい」。歌は力なり。長渕はこれからも揺らぐことのないこの信念を貫くつもりだ。（江川悠）

廃虚に言葉失う

○…ミニライブに先駆け、長渕は石巻市役所で亀山紘市長から被災状況の説明を受けた。その後、身元不明の約300の遺体が埋葬されている石巻市の北鰐山（きたわにやま）墓地を訪れ献花し、津波と火災で約2000世帯がほぼ壊滅した同市の南浜町・門脇町地区に向かい、がれきの山の中を歩いて回った。

焦げくさいにおいやアンモニアのような刺激臭が立ち込める廃虚を厳しい表情で見渡し、言葉を失う長渕。途中、がれきの中から家族写真が入ったアルバムを見つけると、涙をこらえながら「ほら、名前が書いてあるよ。ちゃんと届けてあげなきゃ」と、立ち合った自衛隊員にそのアルバムを託した。

「この悔しさを行動に表して、日本中が援護射撃しながら新しい大地を作ってほしい。必ず立ち上がれると思う」。長渕は地獄のような風景をしっかりと目に焼き付けていた。

㊧避難所となっている石巻高校を訪れた長渕剛
㊤航空自衛隊松島基地ではミニライブを開催
㊦がれきから家族写真のつまったアルバムを見つけ、手に取る長渕＝石巻市で

ラジオを千個寄付

○…長渕は自身のラジオ番組を聴いて少しでも被災者に元気になってもらおうと、所属レコード会社のスタッフを通じて気仙沼市の避難所に携帯ラジオ1000個を寄付した。

江～姫たちの戦国

婚礼を済ませた江

1584（天正12）年、江（上野樹里）は尾張で、佐治一成（平岳大）と婚礼を迎える。乳母の饗庭局（地雅子）から初夜に際し骨な助言を聞いた江は、最中に倒れてしまう。江は一成の優しさに気を取り戻す。

江は一成と共に、